

2008 ふくほうディスクロージャー誌

2008 ふくほうディスクロージャー誌

Fukuho Report



The Fukuho Bank, Ltd.

発行／平成20年7月
編集／株式会社 福邦銀行 企画部
〒910-0023 福井市順化1-6-9
TEL／0776-21-2500(大代表)
<http://www.fukuho.co.jp>



ゆめBANK
福邦銀行

C O N T E N T S

シンボルマーク・プロフィール	1
頭取あいさつ	2
中期経営計画	3
トピックス	4
平成19年度業績ハイライト	6
より信頼をいただくための取り組み	8
地域貢献への取り組み	14
資料編	17

地域社会への貢献

私どもは幸せな人間生活と豊かな社会づくりに貢献することを銀行活動の使命とします。

健全なる経営

銀行の発展は、地域社会への貢献の証しであり、私どもの存在を可能とするため、より健全な経営に心がけます。

経営理念

活力ある職場

私どもが人間として尊厳を勝ちとるための錬成の場として、明るく活力ある職場づくりに努めます。

福邦の心

至誠の心

信頼の絆と責任を自覚し、お客様にまごころを尽くします。

和の心

お互いの立場を理解し、喜びを分かちあう心を育てます。

進取の心

変化に対応する熱意と挑戦する心を養います。

共存共栄の心

お客様第一に徹し、共存共栄の心で奉仕します。



■ シンボルマーク ■

当行は平成元年にCI計画を導入し、このシンボルマークを使用しております。このマークは、皆様と当行の固い信頼関係の上に、共に発展していくため、当行のイニシャルである「F」をダイナミックにシンボル化したものです。グリーンの三角は地域の発展を示し、白とグリーンで円を描いている部分は、皆様と当行のふれあいを表しております。この三角と円のハーモニーによって、全体にイメージされる「F」のデザインは、地域と皆様の繁栄に貢献し、未来永久に幸せをもたらしていきたいという当行の決意を示しております。

■ プロフィール ■

(平成20年3月末現在)

名 称	株式会社 福邦銀行 THE FUKUHO BANK, LTD.
本店所在地	福井市順化1丁目6番9号
創 立	昭和18年11月5日
資 本 金	43億円
預 金	4,319 億円 (単体)
貸 出 金	3,304 億円 (単体)
発行済株式総数	31,800 千株
自己資本比率	7.28% (国内基準)
店 舗 数	49ヵ店
キャッシュコーナー	102ヵ所
従 業 員 数	587 名
ホームページ	http://www.fukuho.co.jp
金融機関コード	0537

お客様から相談され、個性が光る存在感のある銀行を目指しております。



取締役頭取 三田村俊文

平素より私ども福邦銀行を格別にお引き立ていただき誠にありがとうございます。

当行は、昭和18年の創立以来、地域社会への貢献のため健全な経営を続け、皆様と共に発展を遂げてまいることができました。これもひとえにお取引先、株主の皆様をはじめ地域の皆様のお陰でございます。

このディスクロージャー誌「Fukuhō Report 2008」は当行の経営方針や平成19年度の業績、活動状況などについて、わかりやすくご紹介させていただくことを心掛けて作成いたしました。当行が何を目指し、どのように取り組んでいるのか、皆様のご理解を深めていただけたら幸いです。

今後の経営環境を展望いたしますと、金融技術革新や規制緩和が進展するなか、金融サービス機能が一層拡充し、業態を超えた競争がますます拡大してまいります。

こうした金融環境の激しい変革に柔軟に対応し、地域のお客様に最適な金融サービスを提供するため、地域に根差した営業体制を強化し、収益性の高い健全な経営体質を構築することが主要課題であると考えております。

業務につきましては、A T Mの利用提携などお客様の利便性を第一に考えたA T Mネットワークの構築、お客様の多様なご要望にお応えしサポートするソリューション営業のための商品・サービスの充実にも力を入れてまいりました。また、少子化社会に対応し、金融機関として子育てに頑張っているご家族・企業を応援するため、平成19年4月に「子育て応援バンク宣言」を行い、子育て支援商品や金融経済教育などに積極的に取り組んでおります。

当行では、平成19年4月から中期経営計画「お客様感動への挑戦」を推し進め、常にお客様の立場になって考え行動することを原点に、「お客様から相談され、個性が光る存在感のある銀行」を目指し、役職員一同全力を投入して地域金融機関としての役割を果たしてまいり所存であります。

今後とも、なお一層のご支援、お引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

平成20年7月

中期経営計画

お客様感動への挑戦 計画期間 平成19年4月～平成25年3月（5ヵ年）

目指す銀行像

お客様から相談され、個性が光る存在感のある銀行

基本方針

独自性とスピードによる攻めの経営

運動指針

{C.S.}運動の推進＝お客様との接点重視とフォローアップ

{C.S.}運動とは

お客様と多くの接点を持ち、相談される存在となり、しかも速やかに問題を解決して
Customer's Contact Consultation Speed Solution
満足していただく運動 {C.S.}は「C」と「S」の集まり
Satisfaction

重点課題

【収益力の強化】	【組織力の発揮】	【ガバナンス態勢の強化】
■ 差別化戦略の展開とソリューション営業の推進 ■ 顧客接点の強化とITの活用 ■ 对您客、对您店へのスピード対応	■ 楽しくエキサイティングな仕組みづくり ■ 組織・制度の改革と人材育成 ■ スピードを持って行動するシステムの構築	■ コンプライアンス態勢の強化 ■ リスク管理の高度化 ■ 内部統制態勢の確立

当行では、経営環境が大きく変わっていることから中期経営計画「お客様感動への挑戦」の計数目標を見直しいたしました。目標達成年度を平成24年度として実効性のある計画に改定し、役職員一丸となり計画達成に向けて取り組んでおります。

計数目標

目 標 項 目		見直し後の目標 (平成24年度目標)	当初中計目標	平成21年度見込み (中計最終年度)
メ イ ン	自己資本比率	10.0%以上	10.0%以上	9.2%
	コア業務純益	26億円以上	30億円以上	2,258百万円
	コア業務粗利益	100億円以上	100億円以上	9,381百万円
サ ブ	不良債権比率	5.0%台以下	5.0%台以下	6.8%程度
	コア業務ROA	0.6%以上	0.6%以上	0.5%程度
	コアOHR	75.0%以下	70.0%以下	76%程度

「子育て応援バンク」のトピックス



福井銀行「子育て応援バンク」マーク

福井銀行は、平成19年4月に「子育て応援バンク宣言」を行いました。地域金融機関として地域のお客様の子育てを金融面から応援する「子育て応援バンク」としての取組みを開始いたしました。

「子育て応援室」の設置（19年6月）

子育て応援バンクとして子育て応援に関するCSR（企業の社会的責任）活動をさらに推進するため本部組織として「子育て応援室」を設置しております。

子育て応援に積極的な企業のお客様向け「事業性融資商品の金利優遇」（19年6月）

福井県が推進する「子育て応援プラスワン宣言企業」に登録するなど、子育て応援に積極的な企業のお客様を対象に事業性融資商品「エクセレント」および「ふくほうビジネスローン勇士2000」の金利優遇をお取り扱いしております。

児童手当受給のお客様を対象に、ATM利用・振込手数料の無料化（19年6月）

児童手当を当行で受給されているお客様を対象に、当行ATMご利用の場合の「他行および本支店振込手数料」と、他行ATMご利用の場合の「利用手数料」のキャッシュバック・サービスを行っております。

ふくほう住宅ローン「子育て優遇制度」（19年7月）

固定金利選択型住宅ローン（特約期間2年・3年・5年・10年の4種）について、お子様の人数に応じて住宅ローンの金利優遇を行う「子育て優遇制度」をお取り扱いしております。優遇は当初お借入時だけでなく、金利再選択時にも適用させていただきます。

「子育て応援定期」（19年8月）

お子様の人数に応じて定期預金の金利を優遇する「子育て応援定期」をご用意しております。

金融経済教育

保育園児や幼稚園児、小学生のお子様とご家族を対象とした金融経済教育に取り組んでおります。行員で結成した「ふくほうキッズ応援チーム」が企画・運営を行います。平成19年11月には、福井県が主催する女性のビジネスライフを楽しくするミニ講座において「親子マネー講座」を開催して協力いたしました（協力 福井県金融広報委員会）。平成20年7月、福井県と「親子マネー教室」を共催いたします（協力 福井県児童科学館、福井県金融広報委員会）。



金融経済教育

「子育てファミリー応援企業」等に登録

福井県が推進する「子育て応援プラスワン宣言企業」に登録しているほか、平成20年6月、福井市が推進する「子育てファミリー応援企業」に申請し、登録されました。

創作童話の制作

創作童話「フウとククのおほしさま」を平成20年6月に発表いたしました。当行ホームページ「ふくほう童話コーナー」でご覧になれます。（制作「ふくほうキッズ応援チーム」、協力「女性行員プロジェクトチームT i a r a」）。



創作童話「フウとククのおほしさま」

「地震デリバティブ」媒介業務（20年4月）

三井住友海上火災保険株式会社と提携し、「地震デリバティブ」の媒介業務を開始いたしました。

「ふくほう機械担保ローン」（20年4月）

興銀リース株式会社と提携し、機械類を担保の対象とする「ふくほう機械担保ローン」のお取り扱いを開始いたしました。

「株主優待制度」（20年4月）

株主様の日頃のご愛顧にお応えするため「株主優待制度」を新設いたしました。優待は1株主様あたり5,000円程度、「定期預金」「外貨預金」「投資信託商品」の3商品のうち、いずれか一つについて優遇の権利を行使できる「株主優待券」を株主様に贈呈いたします。

イオン銀行とATMの利用提携（20年5月）

平成20年7月から当行とイオン銀行のATMが手数料無料で相互に利用可能となります。

「夏のボーナス 定期預金キャンペーン」（20年6月）

「第28回懸賞品付き定期預金」「金利上乘せスーパー定期預金」のお取り扱いを開始いたしました。

Fukuho Card〈ふくほうICキャッシュ&クレジット〉（20年6月）

福井ICキャッシュカードにクレジット機能をプラスしたFukuho Card〈ふくほうICキャッシュ&クレジット〉のお取り扱い開始いたしました。

平成19年度トピックス（平成19年4月～平成20年3月）

内 容	実施日
「退職金定期預金」金利上乘せキャンペーン開始	19年4月
新中期経営計画《お客様感動への挑戦》策定	19年4月
携帯電話による「投資信託基準価額」情報サービス開始	19年4月
夏のボーナス 定期預金キャンペーン「第26回懸賞品付き定期預金」「金利上乘せスーパー定期預金」お取り扱い開始	19年6月
本部機構の一部改正	19年6月
北京2008オリンピック競技大会公式記念コインのお取次ぎ販売開始	19年7月
セブン銀行とATM利用提携開始	19年8月
行こうぜふくほうキャンペーン「金利上乘せスーパー定期預金」	19年9月
ATM引出し手数料の完全無料化開始	19年10月
福井県内金融機関とATMお引出手数料の完全無料化提携開始	19年10月
北陸銀行とATM相互無料開放開始	19年10月
ふくほう住宅活用ローン「ゆめPLUS」お取り扱い開始	19年10月
新光証券との提携による「顧客紹介業務」お取り扱い開始	19年11月
冬のボーナス定期預金キャンペーン「第27回懸賞金付き定期預金」「金利上乘せスーパー定期預金」お取り扱い開始	19年11月
福井銀行と金井学園の包括的連携・協力に関する協定を締結	19年11月
「医療保険」「がん保険」お取り扱い開始	20年1月
「日仏交流150周年記念コイン」のお取次ぎ販売開始	20年1月
「R&I中堅格付け」お取次ぎ業務開始	20年2月
マイカー購入ローン金利優遇キャンペーン	20年2月
「機械担保融資スキーム」お取り扱い開始	20年3月

平成19年度 業績ハイライト

単体での決算状況

預金は、個人預金は増加したものの、法人預金等が減少したことを主因に、前期末比15億11百万円減少して期末残高は4,319億8百万円となりました。

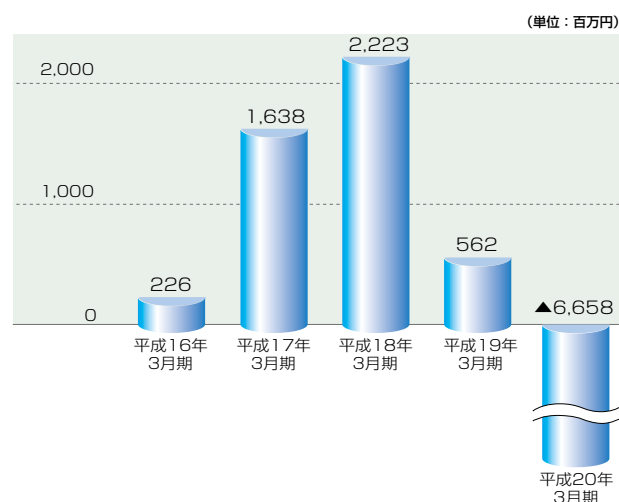
また、貸出金は、事業性資金需要の低迷及び不良債権の最終処理の実施等により、前期末比76億30百万円減少して、期末残高は3,304億99百万円となりました。

有価証券は前期末比25億43百万円減少して、期末残高は874億47百万円となりました。

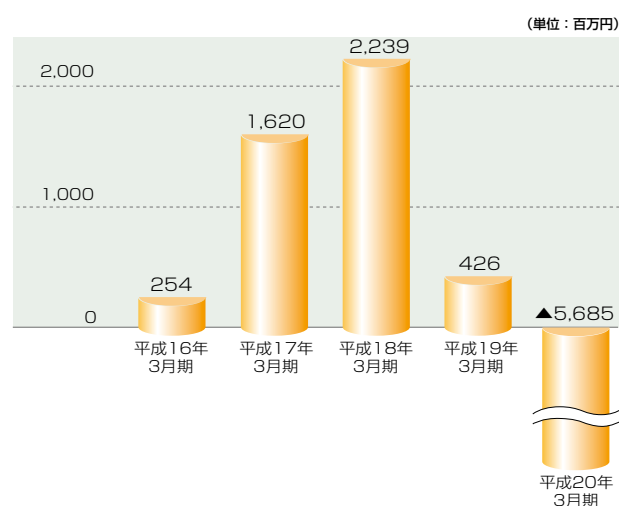
経常収益は、金融市場の混乱による有価証券相場の低迷により、有価証券関係収益が減少した結果、前期比10億75百万円減少して119億46百万円となりました。また、経常費用は金利引上げにより資金調達費用が増加したことに加え、地域経済の景気減速動向を見据えて取引先企業の業況変化に対処し、将来の貸し倒れに備えた予防的な引当金の大幅積み増しによる与信関連費用が増加したことにより、前期比61億45百万円増加し186億4百万円となりました。

経常損失は66億58百万円、当期純損失は66億60百万円となりました。

経常利益



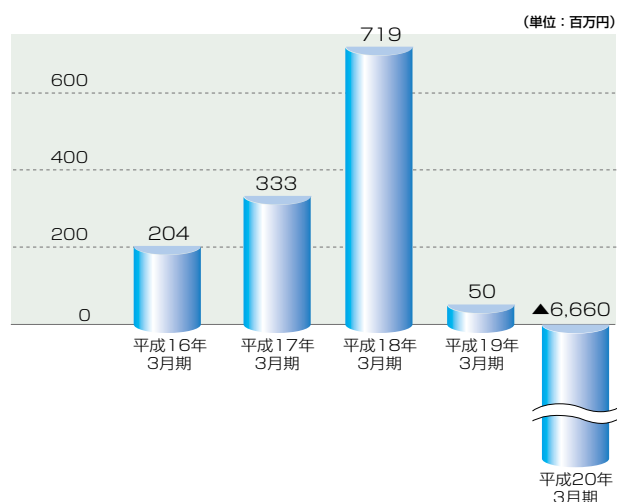
連結経常利益



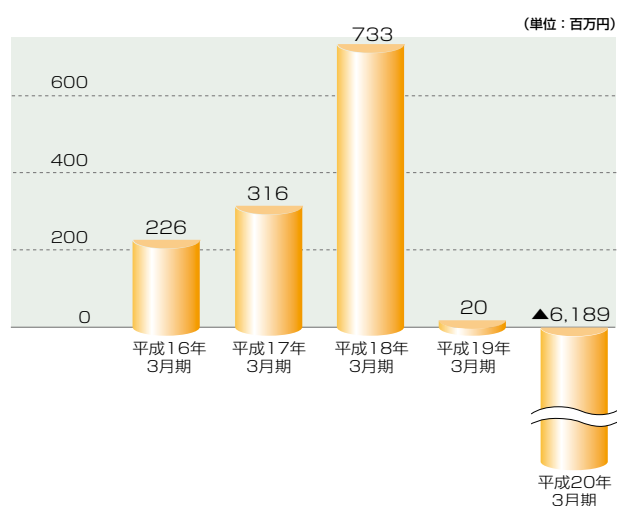
業務純益



当期純利益



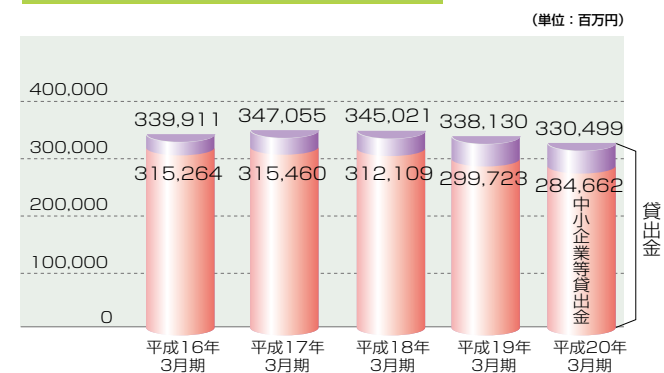
連結当期純利益



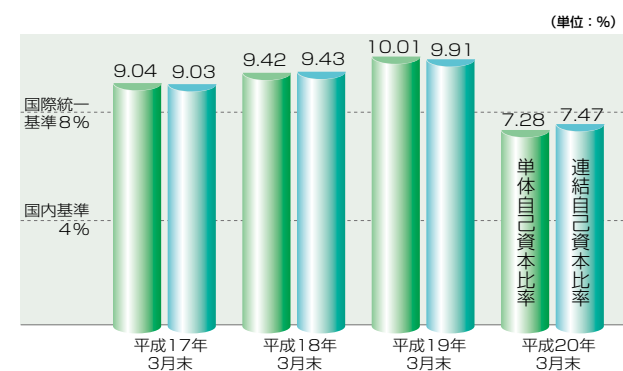
預金 (単体)



貸出金 (単体)



自己資本比率



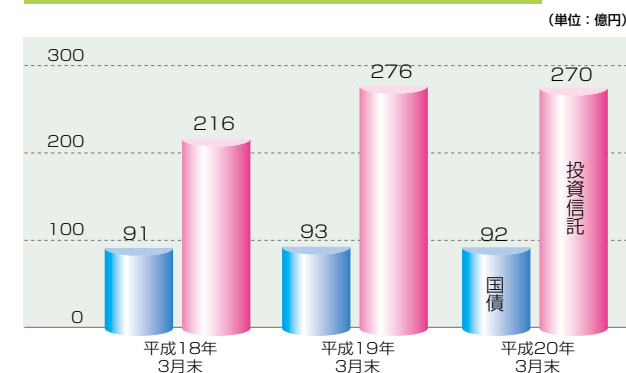
配当政策

当行の配当方針は、銀行業としての公共性に鑑み、長期にわたって安定経営に努め、年2回の継続かつ安定した配当実施をすることとしております。また、配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は定時株主総会であります。

平成20年度は創業以来初めての赤字決算となりましたが、継続かつ安定した配当方針に基づき、平成20年度におきましても、中間配当は平成19年11月22日開催の取締役会にて総額78百万円・1株当たり2円50銭を決議し、期末配当は6月27日開催の定時株主総会にて総額78百万円・1株当たり2円50銭にて決議を賜りました。

今後につきましても厳しい経営環境が予想されますが、営業基盤の拡充を図りながら一層の収益向上に努め、内部留保の充実による財務体質を強化することにより、株主各位のご期待に添うべく努力してまいります所存です。なお、当行は、取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

預かり資産残高の推移



住宅ローン残高および件数の推移



自己資本比率は銀行の安全性・健全性を示す重要な指標のひとつです。当行のように海外に支店を持たない銀行は国内基準の4%以上が義務付けられております。

平成20年3月末のリスク・アセット（万一の場合、貸倒れの危険性のある資産）に対する自己資本の額は銀行単体160億円、連結は164億円、自己資本比率は単体7.28%、連結7.47%となっております。

※当行は、負債性資本（劣後ローン・劣後債など将来の返済が必要なもの）をとり入れておりません。

用語解説

業務純益

銀行本来の業務であげた利益から、業務を行う上でかかった経費と一般貸倒引当金繰入額を差し引いたものです。

経常利益

不良債権の処理や有価証券の売買などの活動も含めた通常の活動による利益です。

当期純利益

上記の経常利益から特別損益と税金を加減した最終的な利益です。